

2013年8月22日発行・発売（毎月1回22日発行・発売）第25巻 第10号（通巻238号）1998年6月11日第三種郵便物認可

# Fly Fisher

PISCATORIAL PURSUIT

フライフィッシャー  
MONTHLY MAGAZINE  
OCTOBER 2013 No.237

10  
1200円

暑さと涼しさの入り混じる季節に広げる、ニッポンの豊かなFFフィールド

## Expand Your FLY Field.

秋こそ見つかる、楽しい釣り。

岩手県薬師川 心洗う碧

The SCHMIDTERBUG  
アメリカ発・ジッターバグ的新作フライ

3つの力を利用する  
スカジットのスイング考

ハイブリット化は進んでいるのか？  
ヤマトイワナをめぐる誤解と意外

海を渡るスペイキャスター  
イギリスCLA挑戦記

Marc Petitjean  
マルク・プティジャン、ヨーロッパ発アイデアの源泉

夏の長野で父子キャンプ

# Marc's Magic

憲=文  
Tomonori Higashi

## マルク・プティジャンの

スは、山と水の国。  
ノメーターを初めとする精密機械の生産に  
高い水は欠かせないが、  
ちのフライフィッシングにも  
スの歴史は大きく関わっている。  
ロッパ当代随一の発想者、  
ク・プティジャンが語る  
とフライ、ツールの歴史と現在。



# 切り口

**フライフィッシャー（以下FF）** プティジャンさんのお名前は、ずっと意識にあるわけです。ベストなどは相当以前から輸入されていましたが、日本の代理店を通してバイスを販売されたこともありました。またCDCの使い方に際し、世界のタイピングシーンに浅からぬ影響をもたらされた方で、今日はいろいろと細かいことも伺いたいと思っています。

**マルク・プティジャン（以下MP）** どうぞお手柔らかに。

**FF** スイスという国は、今や私たちにとってたいへん重要なタイピングマテリアル、というか一部の人間にとっては「これだけは欠かせない」という中核的なフライ素材であるCDCが「発見」された国だと理解しているのですが、まずはご自身のバックグラウンドとしてのスイスの釣りに関して、すこし教えて頂きたいのです。

**MP** いったい誰がCDCを使い始めたのか、いろいろと調査してみても、実際はよく分からないのです。しかし、アーミーナイフと同じようにスイスが発祥の地というのは間違いないでしょう。歴史のあるフライメーカーがいくつかあり、有名な個人タイヤーもいました。たぶん1920年代だと思のですが、マクシミリアン・シヨセット、チャールズ・ビッケル、そしてやや時代が下ってルイ・ベヤといったタイヤーが巻いたシンブルなフライがCDCを本格的にフライに使うようになった起源だと思います。

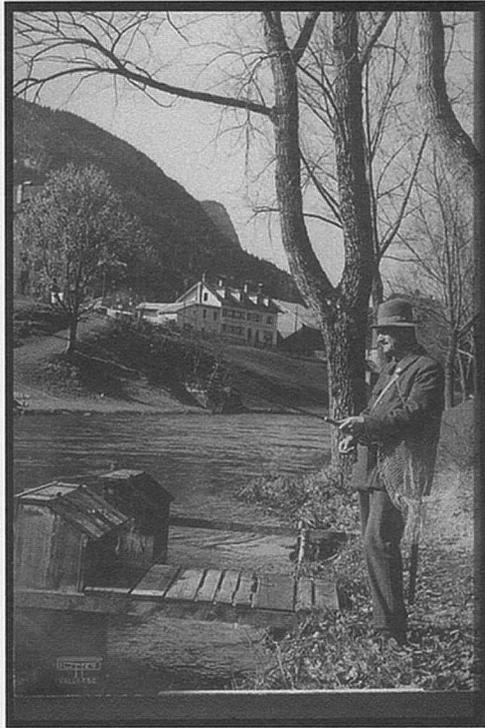
**FF** 彼らは個人タイヤーだったので、  
すか？

けれど、相当しつかりしたもので、かなりの数の女性タイヤーを抱えていたと聞いています。ビッケルは、これもスイスらしい産業である鉄鋼の仕事から転身し、フライタイヤーとなった男です。  
**FF** 当時の有名なバターンとしては、どんなものがありますか？ フランス語で説明されても、なかなかピンと来ないのでが一応。

**MP** ムステイック・デュ・シユラは、シヨセットの有名なフライです。ムーシユ・ドゥ・パローフというのは、ビッケルが創設した工房の名前であり、そこで巻かれたフライの総称ですね。これらはフランスとスイスの国境地帯でよく使われました。テイルはシンブルなルースターハックルのファイバーが省略、ポディーはスレッドからファイア、そしてハックルがCDCという感じですね。この手のフライは、他国の誰にも「発見」されず、1970年代くらいまで使い続けられていたんです。

**FF** ラファイアとかスイスストローは、ポディー材としてまたよく使われているんですね。お住まいになっているのはフリブルですが、そのあたりの釣りはどうなんですか？

**MP** 標高は700mくらいで、町の中をサリヌ川が流れています。クルマで1時間圏内に、素晴らしい釣り場が、そっぴらなあじヶ所くらいは思いつきますね。もっぱらフリーストーンの川とチヨークストリームで、スプリングクリークはないけれど、マスはよく教育されています。だからこそCDCが必要だったんです。



左/釣りを楽しむチャールズ・ビッケル。ウールの上下にウールのハット

下/マクシミリアン・ジョセツ、フライタイヤーとしての我々の曾祖父



**MP** 野生のカモもいるけれど、ヨーロッパ全土に存在する食用鴨のマーケッとはやっぱり大きいですよ。

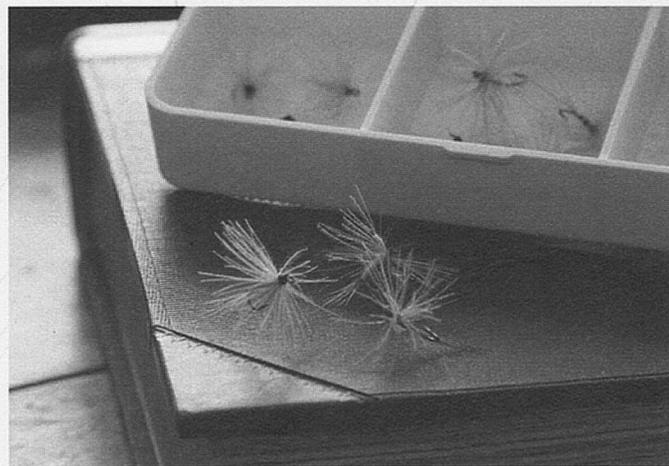
**FF** フォアグラ用も含めて？

**MP** そう。フォアグラはもともとガチョウの肝臓なんですけど、いまはカモも使います。私も独自のルートを使って、複数の業者と契約しています。もちろん、野生のカモから採ったCDCも扱っています。

**FF** 聞いていいかどうか迷いますが、年間どれくらいの量のCDCをプロフェッショナルなタイイングに使い、また販売しているのですか？

**MP** だいたいまとめて40kg。相当なものでしょう？

**FF** 日頃1gパックをちびちび使っている人間としては、想像もつかないですね。



これがベヤによるムステイク・デュ・ジュラ。ボディーはシルクあるいはラフィア、ウイングはなし、ハックルはCDC

## 性能のよい シンプルなフライを

**FF** ではすこし話題を変えて、ブレイジャンさんの自分史をかんとんに伺いたいのですが……。

**MP** 生まれは、セーヌ川の近くにありフランスの町。祖父がフライフィッシャーだったから、子どもなりの手ほどきは受けたけれど、好んでいたのは生エサやルアーを使った釣りでした。それから釣りに関しては、若者の特権としてのしばらくの中断があつて。ひらたく言うと、女の子が興味の中心となるわけですね。1978年にスイスに移ってきて、地元フライフィッシャーたちと交流するようになってから、フライの釣りには積極的に取り組むようになり、またタイイングも始めたんです。

**FF** いきなりフライ関連品の会社を

作ったわけではないですよ？

**MP** 最初は会社員ですよ。時計に関係する会社で働いていたら、いつのまにかナンバーツーになっていました。従業員は200人以上いたから、まあまあ規模だったと思います。1980年代、私は仲間内でちよつとは知られたタイヤーになっていたって、CDCの使い方も慣れていました。当時は、全体をハックリングする、ハックルティップ全体をウイングにする、あるいはファイバーをステムから外して使うといった方法が主流だったけれど、用途はウイングとハックルだけでした。

**FF** そこで、フェザー全体をボディーに巻けないかと考えたわけですね。

**MP** 私が巻いた最初のCDCパターンはカデイスで、その次にメイフライでしたけど、ボディーのことにに関してはあまり考えられていなかったようなんです。でも質のよいCDCフェザーを軽く燃つて巻くと、簡単にテーパーの付いたボディーができて、浮力もすばらしいんですよ。フェザー本来が備える自然なポリウムを活かしてやればよいわけですよ。

**FF** まったくです。このことはまた後から細かく伺うこととして、自分史のほうに戻りましょう。独立なさったのはいつですか？

**MP** 1990年です。自分の会社を興すことで、組織のナンバーワンになることができたのですが、最初は辛いことがありましたよ。10年ほどは、私が唯一のタイヤーでしたから、夜なべしてフライを巻きました。年間の生産本数は、2万5000本くらいだったかな。さすがに今はそんなに巻けないので、近隣

の有能なタイヤーたちに仕事を任せています。フリポールに住んでいる、手先の器用なハンディキャップ市民たちです。タイイングだけでなくいろいろんな仕事をしてもらっているけれど、彼らはじつに有能ですよ。

**FF** 身体にそれほど負担がありませんから、障害者にとつてタイイングというののはすばらしい仕事ですね。ときに、あなたのフライパターンは全部、たとえば「MP18」といったコードナンバー表記で、「ブレイジャン・CDCペイティス・イマージャー」のような名前はいっさい付いていないのですが、これにはどういった訳があるのですか？

**MP** 具体的すぎる名前を付けると、用途が限定されます。そのパターンが備える本来の能力を限定してしまうのです。具体的に説明しましょう。ヨーロッパでは、羽根がフルダグン、ボディーがオリブをしたダグンの姿を持つカゲロウは、400種類くらい生息しています。ペイティス系に限らず、ほかの種類にもそのカラーがあるわけです。でも、フライパターンに「ペイティス」とか付けてしまうと、ユーザーはコカゲロウが羽化するときにしか使えないパターンと思ってしまうでしょう。実際は、同じカラースキームがほかの種類のカムフラージュにも対応できるにもかかわらず、です。

**FF** だからあなたは伝統的アプローチを採るミニマリストとしての立場なんですよ。

**MP** 実際の昆虫に存在するカラーの組み合わせを留意して、サイズバリエーションを留意して、コード表記に採用するボディーとウイングのカラーの組

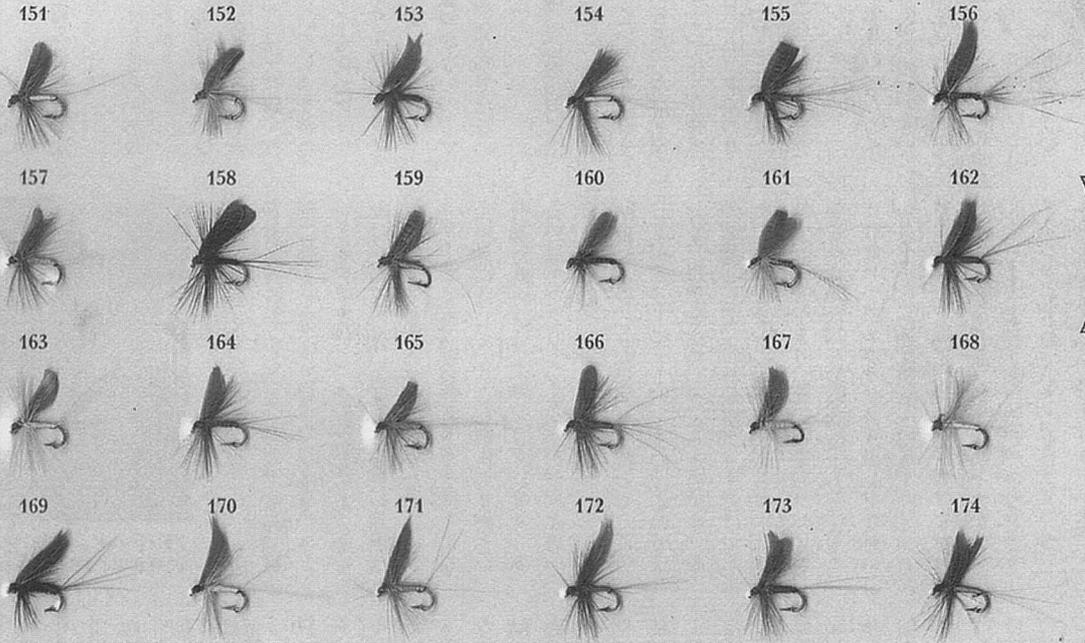
**MOUCHES ÉPHÉMÈRES**  
pour Ombres et Truites

**"BICKEL"**

**EINTAGSFLIEGEN**  
für Äsche und Forellen

Grandeur { 16  
Grösse {

Prix {  
Preis {



**MOUCHES SÈCHES**

*Recommandées aux professionnels*

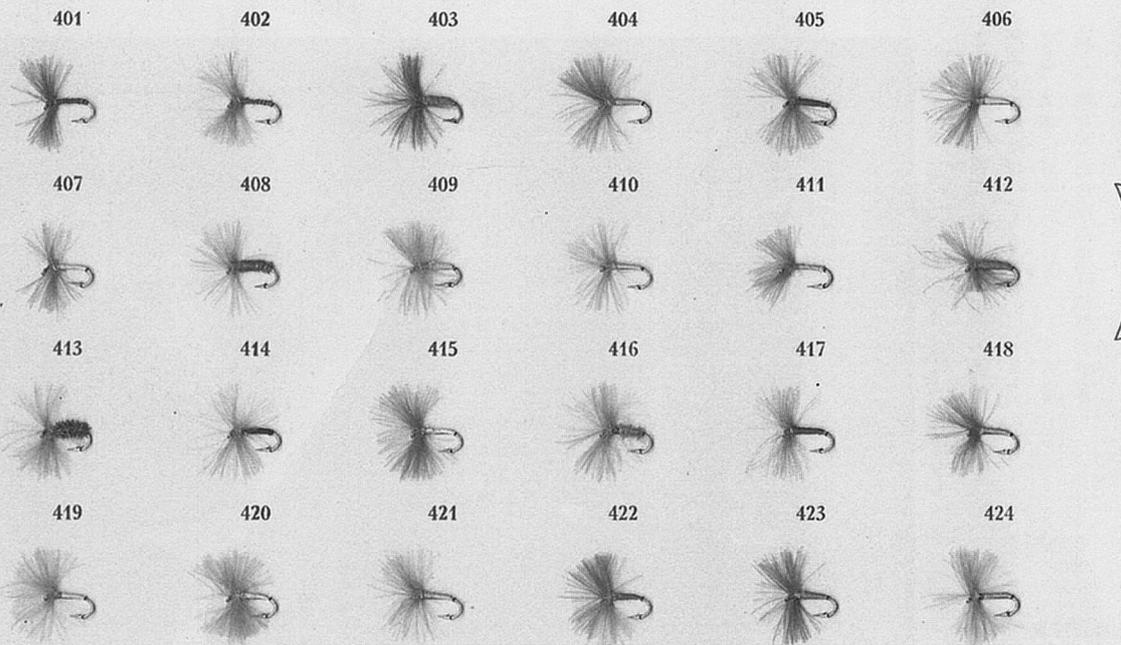
**"BICKEL"**

**TROCKENE FLIEGEL**

*Bezugsfischern bestens empfohlen*

Grandeur { 16  
Grösse {

Prix {  
Preis {



現物を使用したビッケル工房のカタログ。おそらく問屋、小売店向けに作成したものだ

みあわせは、調査と実践で決めました。あきらかに釣れない、あるいは自然界に存在しない組み合わせというのはありますからね。ボディーとウイングのカラーコンビネーションを決めるためには、基盤のような表を作って、釣れない組み合わせ、不自然な組み合わせを除外していきました。

**FF** 今まで、何パターンくらいの方ライを考案してきましたか？

**MP** カラーパリエーションがパターンに入るか否かというのは難しいけれど、色を除外してスタイルだけに特化すれば、40から50タイプくらいでしょうかね。

**FF** 沈めて使うフライも含めて？

**MP** そう。たとえばサーモンフライにもCDCは使えますよ。

**FF** その利点が想像つかないのですか。マラブでじゅうぶんなのではないですか？

**MP** CDCの特徴は、三次元的に生えたバービュールです。このおかげで、水中に沈めても繊維がちいさくまとまらず、少量でもふわっとしたバルクを保つのです。マラブとはまったく存在感が違いますよ。私がCDCハックルのサーモンフライを発表したのは相当前になりますが、あまり評価されず、販売を中止しています。

**FF** なるほど。写真で見るとたしかに、マテリアルの量が少ないので、ゼンたいに透けた感じがすばらしいですね。タイミングが早すぎたんじゃあないですか？

**MP** そうだと思いません。今なら状況は変わっているかも知れませんが、しかし、昔はニンフにCDCを使っただけで、ジャーナリストたちに「頭がおかしい」



プティジャンによるCDCサーモンフライは、ふわりとした存在感と透明感の兼ね合いが特徴である

と言われたくらいですから。

**FF** ニンフのレックなどですね。繊細に動かし気泡も抱くでしょうからよいと思いますけど。それにしても、あなたはCDCの使い方を多方面に追求されています。テックで留めたCDCフエザーをまるごとねじり、ボディーに巻く用途に関して、すこし教えてください。普通ならウイングやレックに使う、あるいはハックリングする素材だと思えますので。

**MP** タビング材などを使って、苦労してボディーにテーパーをつけるのではなく、自然を活用したかったのです。その結果として、CDCボディーだけでじゅうぶんな浮力を確保できるようにになりました。つまり、そのほかのデザイン要素を盛り込む自由度が増すわけですね。これはじつにエポックメイキングな思いつきだったと自負しています。

**FF** フライは1本5分で巻けなければならぬという持論を持っていらっしやいますよね。あなたがデモなどでタイピングをされているのを見ると、たしかに5分くらいで仕上がっている。

**MP** 現代人の時間は限られているし、釣りやタイピングを天秤にかけると、

私は釣りに時間をかけたいタイプですから。充分な性能を備えるシンブルなデザインのフライを、たくさんボックスに持っていたいです。巻くのには1本1時間をかけたフライを木の枝に取られたら、泣きたくありませんよ。でも、CDCをかるくツイストしてボディーに巻くと、あつという間にすばらしく自然なテーパーのついた形ができます。

## ユニークで機能的なツール

**FF** そうですね。さて、次はフライタイヤーとしてではなく、タックル／ツール開発者としてのあなたに話を伺いたいと思います。正直な話、レンゼットのパイストとマタレリのツールでは駄目なのでしょうか？

**MP** 私はプロタイヤーとして、全速力で10年やってきたでしょう。自分のタイピングスタイルに合わないパイストやツールは、使っていて辛いんですよ。私が最初に使ったパイストはビル・ハンターのHMHで、実際とつてもよい製品なのです。今でも持っていますよ。しかし、CDCを使うならロータリー機能は絶対に欲しいものです。私のデザインした現行の「スイスパイス」には、ありとあらゆるタイヤーに対応できる機能を盛り込むようにしています。私は、このパイストの機能のうち10%しか使っていないかも知れませんが、その10%はきわめて上質なものです。そしてこの割合は人によって違ってよいのだと思います。

**FF** どんなタイヤーにも対応する、多機能を盛り込んだハイエンドモデル

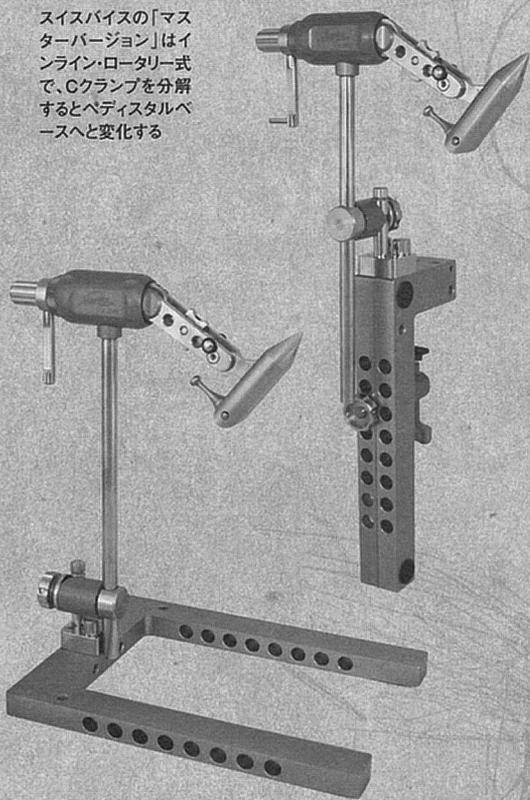


という事です。私がまず驚いたのは、組み立て直せばベイスタルのベースとなる、2本に分かれたCクランプの構造と、ありとあらゆる角度調整ができるステムです。

**MP** 私が昔デザインしたパイストでは、それらの機能はありませんでした。また、

スイスの釣り場に身を置くマルク・プティジャン。私たちが見慣れた風景ともいえる釣り場環境がCDCフライを生み出した

スイスパイスの「マスターバージョン」はインライン・ローター式で、Cクランプを分解するとベディスタルベースへと変化する



チューブフライにも対応しているんです。私はその機能を使いませんが……。

**FF** CDCフェザーのシステムをグリップすることに特化した「MPフライヤー」はどうですか？

**MP** 最初は自分専用で作ったのですが、デモンストレーションをする人も誰もが欲しいので製品化したものです。これはCDCが備えるためのシステムをグリップするためのもので、通常のハックルフライヤーとは少し違います。ハックルフライヤーは、よいものがたくさん出ていますが、フェザーの太いシステムはなかなか押さえられないのです。

**FF** つまり「CDCシステム・フライヤー」なのですか？

**MP** そうです。通常のハックルフライヤーでフェザーを挟む場合、上と下、2点でのコンタクトになります。ところが、特殊なスプリングを使ったこのフライヤーでは3点でシステムを押さえますので、しっかりとグリップして切れにくいのです。それに、CDCを一度に4枚

まで挟めますので、ポリウレームの増大やカラーのミックスも可能です。直径が異なるシステムも、コイルスプリングの許容力によって一気に固定できるのです。

**FF** なるほど。シンブルなツールのように、細部の設定にこだわりが見えます。ダビンググループに入れる素材の準備に使う「マジックツール」に関しては、またの機会で細かく見ていきたいので省略したいのですが、ダビンググループのテクニクは最近また広く見なおされているようですね。

**MP** そうですね。1つにはステイールヘッドینگの人氣があると思いますよ。マジックツールのマグナムサイズも、彼らの要請で作ったものですし。

**FF** 私たちが一般的に使う「ダビングニードル」という呼び名ですが、あなたの製品を見て、ニードルがスレッドを割って、ダビンググループを作るためにも使われていたということを確認しました。スレッド自体を2つに割ってダビンググループに仕立て、マテリアルを挟み

込むという考えは、あなた独自のものではないのですか？

**MP** 違いますよ。もう20年くらいまえのショーで、イギリスないしドイツのタイヤーが、スレッドを割って使うのを実際に見たことがあります。さらに遡れば、昔の英国タイヤーも太いシルクスレッドを割って使っていたのではと思います。古い技術です。

**FF** あなたがデザインしたダビングニードルの特徴は何ですか？

**MP** スレッドを割りやすい針先のテーパーと、扱いやすい短さですね。私のニードルとスレッドを使うと、小ぶりのフライ用としてかさばらないダビンググループを作ることができます。通常の、スレッドを折り返して作るダビンググループでは生れないスリムさです。それに薄くマテリアルを挟み込んでツイストすると、それはそれは繊細なボディができますよ。

**FF** ダビングニードルと組みあわせることが前提の、「スプリットセカンド・スレッド」の特徴を挙げるなら、どんなことがありますか？

**MP** ポリエステル素材の4本撚りですが、撚りはごく緩くしてあり、ニードルを差し込んで割りやすいです。ワックスもかけてありません。体験的に、トラウトフライのタイイングで使うスレッドのカラーは4色で足りると思っていますので、クリーム、グレイ、オリーブ、ブラックだけ。サイズも8/0だけで大丈夫です。

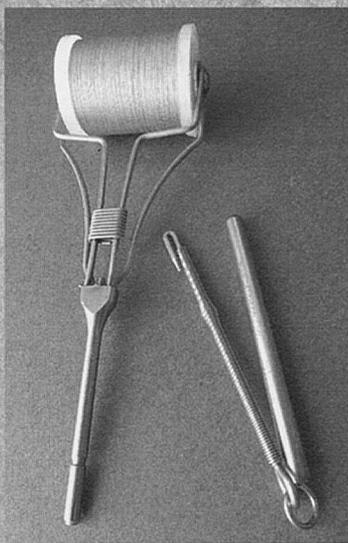
**FF** 製品をおして見ていると、ほんとうに欲しいものを作って販売されているという感じを受けます。これはあなた自身が熱狂的なフライフィッシ

ヤーであり、かつてはプロタイヤーであり、いまはタックル・インベーターであることと関係があるのでしようね。

**MP** 自分のユニークな視点が活用できる領域の中だけで仕事をしたいと思っています。私がフライラインをデザインしたり販売したりしないのは、ほかの会社にもっと優れた人材がいて、素晴らしい製品を作っているからです。餅は餅屋にお任せしたいと思います。



ハックルフライヤーはこのように複数のフェザーのシステムをスプリングでしっかりと固定できる



ポピンホルダーはテンションコントロールと、スレッダーが不要の特殊設計ノーズを備える。右はハックルフライヤー